

式の表記

2024年2月*1

文中での数式はドル記号を用います。そのまま入力すると次のように見慣れないフォントになってしまい気持ち悪いです。

$a+b=c$. ドルを入れない場合.

$a + b = c$. ドルで数式を囲んだ場合.

アインシュタインは $E = mc^2$ といった.

参考書にも書いてある通り、2つ以上の数式を文中に入力する際には、それぞれの数式をドル記号で囲みます (p83をよく読むこと)。ドル記号内に日本語などの全角文字が入るのは原則禁止です。また、カンマやピリオドも通常ドル記号の外にいきます。

$f(x) = 0, g(x) = 0$ の解.

$f(x) = 0, g(x) = 0$ の解.

一つ目の式は $f(x) = 0$ の後に、半角ドル記号、半角カンマ、半角スペース、半角ドル記号といれてそのあとに $g(x) = 0$ を入力しています。

二つ目の式は $f(x) = 0$ の後に、半角ドル記号、全角カンマ、半角ドル記号といれてそのあとに $g(x) = 0$ を入力しています。参考書第7版 p83の参考も読んで違いを比べてみてください。

別行立ての数式の場合は equation 環境にします*2.

アインシュタインは

$$E = mc^2 \tag{1}$$

といった.

上付き下付き添え字にも慣れましょう.

$$a_{n+2} = a_{n+1} + a_n \tag{2}$$

$$1 + 2 + \dots + n = \frac{1}{2}n(n+1) \tag{3}$$

$$\sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1) \tag{4}$$

(3) と (4) は同じもの。(← label や ref コマンドを使うこと.)

$$\frac{1}{1+x} + \frac{1}{1-x} = \frac{2}{1-x^2} \tag{5}$$

$$(\sin x)' = \cos x \tag{6}$$

$$\int_0^{\pi/4} \cos 2x dx = \left[\frac{1}{2} \sin 2x \right]_0^{\pi/4} = \frac{1}{2} \tag{7}$$

—————以下はヒントです—————

- できない人は参考書の5章をよく読んでください.
- 定積分についてはきちんとカッコ [] が中身を含むように大きくすること.
- \sin と \sin の違いに気を付けること.

*1 上のタイトルは center 環境、日付は flushright 環境で表している.

*2 ¥ [¥] 環境でもいいですが、equation のほうが複数次式など汎用性が高いので、equation 環境のほうが良いと思います.